

第112回 定期演奏会

PROGRAM

大澤 寿人:交響組曲「路地よりの断章」(約20分)

Hisato Osawa: Suite pour Orchestre "Les fragments de la ruelle"

- | | |
|--------------------------------------|------------------------------------|
| 第1曲 インヴェンション <i>Invention</i> | 第2曲 母の子守歌 <i>Berceuse de maman</i> |
| 第3曲 だるま <i>Daruma</i> | 第4曲 夜想曲 <i>Nocturne</i> |
| 第5曲 かくれんぼ <i>Cache-cache</i> | 第6曲 銅鑼 <i>Cymbales</i> |
| 第7曲 陽気な小径 <i>Dans la rue joyeuse</i> | |

ラウタヴァーラ:ヴァイオリンと管弦楽のための「ファンタジア」

※日本初演 (約14分)

Einojuhani Rautavaara: Fantasia for Solo Violin and Orchestra ※Japan Premiere

ラヴェル:ツィガーヌ(約10分)

Maurice Ravel: Tzigane for Violin and Orchestra

— 休憩 (20分) — Intermission

リムスキー=コルサコフ:交響組曲「シェエラザード」op.35(約42分)

Nikolai Rimsky-Korsakov: Scheherazade, op. 35

- | |
|---|
| 第1曲 海とシンドバットの船 <i>The sea and Sindbad's ship</i> |
| 第2曲 カレンダー王子の物語 <i>The tale of the Kalendar-prince</i> |
| 第3曲 若い王子と王女 <i>The young prince and the young princess</i> |
| 第4曲 バグダッドの祭、海、船は青銅の騎士のある岩で難破、終曲
<i>Festival at Bagdad, The sea, The ship is wrecked on a rock surmounted by a bronze warrior, Conclusion</i> |

指揮:岩村 力(レジデント・コンダクター) *Chikara Iwamura, Resident Conductor*ヴァイオリン:アン・アキコ・マイヤース *Anne Akiko Meyers, Violin*管弦楽:兵庫芸術文化センター管弦楽団 *Hyogo Performing Arts Center Orchestra*2019 **2/15(金)・16(土)・17(日)** 3:00PM開演
兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール

主催:兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

※演奏時間は目安となります。前後する可能性がありますので予めご了承ください。

助成:

文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術創造活動活性化事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会これさえ
見れば
わかる!

今回の聴きどころ

飯尾 洋一(音楽ライター)

耳で楽しむエキゾチックな冒険旅行

本日のプログラムを一言であらわせば、時空を超えた世界各地を巡る音の冒険旅行。古き日の神戸の路地から出発して、フィンランドの雄大な光景を目にし、ハンガリーのロマ(ジプシー)に出会い、最後はアラビアン・ナイトの世界へと旅立つ。作曲家たちの追憶とイマジネーションが、色とりどりの世界を描き出す。

大澤寿人は神戸出身の作曲家。いち早くヨーロッパで認められるも、帰国後に早世した。交響組曲《路地よりの断章》で描かれるのは昔の日本の遊びの情景。現代の作曲家ラウタヴァーラは、アン・アキコ・マイヤースのために北欧情緒あふれるファンタジア(幻想曲)を作曲した。ラヴェルはハンガリー人ヴァイオリニストが奏でるロマの音楽に魅了され、ロマの世界をラヴェル流の超絶技巧曲として再構築する。そして、オーケストラ・トレーションの達人リムスキー=コルサコフは、めくるめくアラビアン・ナイトの世界を華麗に表現する。

必聴POINT

ライター
おすすめ!!

ラウタヴァーラ:ヴァイオリンと管弦楽のための「ファンタジア」

《今回が日本初演! ソリストが委嘱した新作》

本日のソリストであるマイヤースが、自分のために曲を書いてくれるようラウタヴァーラに頼んだのがこの曲。思い入れの深さは格別。

ラヴェル:ツィガーヌ

《曲の冒頭から続く無伴奏のソロ》

エキゾチックなロマ(ジプシー)の音楽を超絶技巧で表現。ヴァイオリンの高度なテクニックが次々と披露される。

リムスキー=コルサコフ:交響組曲「シェエラザード」

《コンサートマスターのソロが可憐な娘を表現》

曲中になんども登場するのが、ヴァイオリンのソロによるシェエラザードのテーマ。物語の語り手である、姫の可憐な姿が目につくかのよう。

第112回定期演奏会

PROGRAM
NOTE

曲目解説 —
演奏をより深く楽しむために
飯尾 洋一(音楽ライター)



大澤壽人:交響組曲「路地よりの断章」

初演:1936年5月26日 東京

神戸の路地で遊んだ少年時代の思い出

今回の定期演奏会では、兵庫県政150周年を記念して、神戸生まれの作曲家大澤壽人の作品《路地よりの断章》がとりあげられる。神戸女学院所蔵資料「大澤壽人コレクション」の管理にあたっている「大澤資料プロジェクト」代表の生島美紀子氏との共同制作のもと、芸術文化センターが楽譜の校訂版の制作にあたった。作曲は1935年、パリにて。作曲者指揮の新交響楽団(現在のNHK交響楽団)によって初演された。大澤が幼年時代に住んでいた神戸脇之浜の路地で遊んでいた頃の印象が題材となっている。

第1曲 「インヴェンション」 軽快でウィットに富んだ小序曲。

第2曲 「母の子守歌」 少年時代に母親から聞かされたという「あの山越えて里越えて」の子守歌がオーボエで奏でられる。



作曲家プロフィール

大澤 壽人(1906-1953)

Hisato Osawa

1906年、神戸生まれの作曲家。1930年に渡米し、ボストンで学ぶ。交響曲第1番やピアノ協奏曲第1番を作曲。34年、ヨーロッパに渡り、パリでナディア・ブーランジェやデュカスに師事。交響曲第2番とピアノ協奏曲第2番を発表し、イベールやオネゲルらに称賛される。36年帰国。帰国後は映画や放送、シンフォニック・ジャズ分野で活躍した。

- 第3曲 「だるま」 揺れるだるまの姿がユーモラスに描かれる。
- 第4曲 「夜想曲」 幼少時に耳にした断片的な日本風のメロディが回想される。
- 第5曲 「かくれんぼ」 子供時代に遊んだかくれんぼの思い出。
- 第6曲 「銅鑼」 寺の葬式で鳴る銅鑼。
- 第7曲 「陽気な小径」 賑やかな祭りの情景。「越後獅子」が引用される。

楽器編成

フルート2、ピッコロ、オーボエ2、クラリネット2、バス・クラリネット、バスーン2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2、バス・トロンボーン、チューバ、ティンパニ、シンバル、サスペンド・シンバル、スネアドラム、タムプリン、トライアングル、木魚、拍子木、締め太鼓、ハーブ、弦楽5部

ラウタヴァーラ:ヴァイオリンと管弦楽のための「ファンタジア」

初演:2017年3月24日 カンザス・シティ

マイヤースの願いにこたえて書かれた「遺作」

シベリウス以降のフィンランドを代表する作曲家のひとりが、エイノユハニ・ラウタヴァーラである。2016年の夏、87歳で亡くなるまでの創作歴は長い。フィンランドに学んだ後、アメリカに渡りパーシケッティやコーブランドにも師事したラウタヴァーラは、1954年に《われらが時代のレクイエム》で国際的な注目を集めた。以後、さまざまに作風を変遷させながら、8曲の交響曲や協奏曲、室内楽曲、オペラなど多くの作品を残している。

そのラウタヴァーラの人気作に、近年日本でもなんとか演奏されている鳥と管弦楽のための協奏曲《カントウス・アルクティクス》という作品がある。あらかじめ録音された鳥の鳴き声とオーケストラが共演するという、抒情的な自然賛歌であるが、かつてこの曲に感銘を受けたのが本日の独奏者アン・アキコ・マイヤース。楽譜店やレコード店に通って知られざる傑作との出会いを求めていた彼女は、この曲を発見して、いつか作曲者のラウタヴァーラに新作を書いてほしいと考えた。そして、2014年、マイヤースの夢はかなう。ラウタヴァーラにヴァイオリンとオーケストラのためのファンタジアを委嘱したのである。

2015年の秋、草稿を受け取ったマイヤースは、ヘルシンキに作曲者を訪れて、演奏を聴かせた。ラウタヴァーラは演奏を気に入、「私はこんなに美しい曲を書いたのですね」と語ったという。しかし、初演を前にラウタヴァーラは惜しくも世を去ってしまった。

曲は《カントウス・アルクティクス》とも共通する、雄大でのびやかな楽想にあふれ、清冽なリリズムを湛える。独奏ヴァイオリンの息の長い主題が深遠で神秘的な雰囲気を醸し出す。

楽器編成 フルート、オーボエ、クラリネット、バスーン2、ホルン4、ティンパニ、マリンバ、弦楽5部

ラヴェル：ツイガース

初演：1924年4月26日 ロンドン(ピアノ伴奏版) / 同年11月30日 パリ(オーケストラ伴奏版)

名手に捧げたラヴェル流ハンガリー狂詩曲

曲名の《ツイガース》とはロマ(ジプシー)のこと。1922年、モーリス・ラヴェルは演奏旅行でロンドンを訪れ、私的な演奏会でヴァイオリン奏者イェリー・ダラーニの演奏を聴いた。ラヴェルはこのハンガリー人奏者にロマの音楽を奏でてほしいと頼んだ。ダラーニがこれにこたえて一曲弾くと、ラヴェルはもう一曲、さらにもう一曲と次々に演奏を求めた。そしてロマ



作曲家プロフィール

エイノユハニ・ラウタヴァーラ(1928-2016)

Einojuhani Rautavaara

現代のフィンランドを代表する作曲家のひとり。ヘルシンキ大学、シペリウス・アカデミーに学んだ後、ジュリアード音楽院でパーシケッティに、タングルウッドでコーブランドに師事。新古典主義、12音技法から影響を受け作風を変遷させるが、本質的にはロマン主義の作曲家といえる。8曲の交響曲をはじめとする管弦楽曲が知られる。

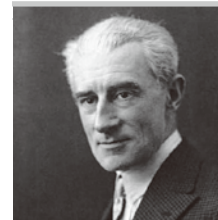
の音楽は朝の5時まで延々と続き、一同はふらふらになりながら聴き入ったという。

これをきっかけとしてラヴェルはダラーニのために新作を構想する。ダラーニの卓越した技巧と情熱的な演奏を念頭に、ラヴェルはパガニーニの《カプリース》を凌駕する難曲を志したという。当初、ラヴェルは独奏ヴァイオリンとリュテアルによる編成を考えていた。リュテアルとは、ピアノに装置をとりつけてハンガリーの民族楽器ツィンバロン風の音を出すことができる楽器。ロマ風の演出を意図していたのであろう。1924年の初演ではピアノ伴奏版が用いられた。ダラーニの独奏による初演は大成功を収めた。さらに、ピアノ・パートを管弦楽用に編曲した版も作られることになった。

曲はハンガリーの民俗音楽チャールダーシュのスタイルで書かれ、ゆっくりとした部分と急速で活発な部分が鮮やかなコントラストを描く。冒頭からしばらく、ヴァイオリン独奏のみによるカデンツァ風の楽想が続く。ロマ風の主題が重音、ハーモニクス、ピツィカートなどの奏法で技巧的に彩られる。やがてハーブが加わって幻想的なムードを醸し出し、次第に曲は高潮する。最後は熱狂的に曲を閉じる。

楽器編成

フルート2(ピッコロ持替)、オーボエ2、クラリネット2、バスーン2、ホルン2、トランペット、シンバル、サスペンド・シンバル、グロッケン、トライアングル、ハーブ、チェレスタ、弦楽5部



作曲家プロフィール

モーリス・ラヴェル(1875-1937)

Maurice Ravel

スイス系フランス人の父とバスク系の母のもとに生まれ、パリで育つ。職人気質に貫かれた緻密な作曲スタイルを特徴とし、卓越したオーケストレーションの技術や洗練されたハーモニーを駆使して「ボレロ」や「ダフニスとクロエ」といった独創的な作品を発表した。一方で、ピアノ協奏曲など、古典的形式を尊重する創作姿勢も顕著。

リムスキー=コルサコフ:交響組曲「シェエラザード」 op.35

初演:1888年11月3日 サンクトペテルブルク

めくるめく「千一夜物語」の世界を音で描く

大人になってから「千一夜物語」(アラビアンナイト)を翻訳書で読んだという方は決して多くはないかもしれないが、船乗りシンドバッドの冒険やアラジンの魔法のランプ等、映画やアニメ、児童文学を通じて、ほとんどの人がなんらかの形でこの説話集に触れたことがあるはずだ。ロシアの作曲家ニコライ・リムスキー=コルサコフは、そんな「千一夜物語」の世界を華麗なオーケストレーションによって、異国情緒あふれる絢爛たる音絵巻として表現した。

「千一夜物語」の基本構造はそのままこの曲でも踏襲される。つまり、外枠の大きな物語のなかで、多数の小さな物語が語られるという枠物語になっている。外側の物語はこんなあらすじだ。シャフリヤール王は妃が奴隷たちと不貞を働いていることを知る。傷ついた王はすっかり女性不信に陥り、妃と奴隷たちを処刑する。そして毎夜、生娘を呼び、一晩過ごしては翌朝に首をはねる暴君に成り果てる。あるとき、大臣の娘シェエラザードが自ら王のもとへ赴く。夜、シェエラザードは王に不思議な物語を聞かせる。「今日はここまで」と話を終えるシェエラザードに、どうしても続きを聞きたい王は処刑を思い留まる。そんな日々が千一夜続いた末に、王はシェエラザードをついに妻に娶る……。

毎夜シェエラザードが命がけで語る物語が、シンドバッドの冒険であり、(この曲には登場しないが)アラジンの魔法のランプというわけだ。

第1曲「海とシンドバッドの船」 冒頭に荒々しく鳴り響くのがシャフリヤール王の主題。続いて独奏ヴァイオリンが可憐なシェエラザードの主題を奏でる。これからシェエラザードがシャフリヤール王に物語を聞かせるのだ。主部に入ると4分の6拍子で波打つ海と、滑るように前進する船の様子が描かれる。船乗りシンドバッドの冒険の始まりだ。ときには物語に聞き入る姿をあらわすかのようにシャフリヤール王の主題が絡み、独奏ヴァイオリンによるシェエラザードも姿を見せる。

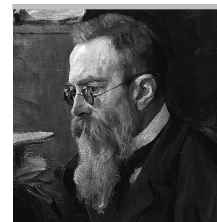
第2曲「カレンダー王子の物語」 ふたたびシェエラザードの主題に導かれて、新たな物語がはじまる。おどけたファゴットによるカレンダー王子の主題が登場する。カレンダー(カランダール)とは人の名前ではなく、家族や財産を捨てた托鉢僧のこと。「千一夜物語」には托鉢僧になった王子の話がいくつか登場する。

第3曲「若い王子と王女」 夢見るようなロマンス。中間部でシェエラザードの主題があらわれて、物語を聞かせるシェエラザードの姿が垣間見える。ふたりのロマンスは次第に熱を帯びる。

第4曲「バグダッドの祭り、海、船は青銅の騎士のある岩で難破、終曲」 第1曲冒頭の荒々しいシャフリヤール王の主題が返ってくる。これに答えるシェエラザード。ふたりの対話に続いて、活気にあふれる祭りの情景が描かれる。祭りが最高潮に達したところで、第1曲の海の情景に戻る。船は大嵐に襲われて難破する。曲が静まると、シェエラザードの主題が返ってくる。シェエラザードの主題に、低弦によるシャフリヤール王の主題がやさしく重なり合う。ついに王の傷心が癒えたのか。

楽器編成

フルート2(ピッコロ持替)、ピッコロ、オーボエ2(イングリッシュ・ホルン持替)、クラリネット2、バスーン2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2、バス・トロンボーン、チューバ、ティンパニ、大太鼓、シンバル、サスペンド・シンバル、スネアドラム、タンブリン、タムタム、トライアングル、ハープ、弦楽5部



作曲家プロフィール

ニコライ・リムスキー=コルサコフ (1844-1908)

Nikolai Rimsky-Korsakov

オーケストレーションの大家として知られるロシアの作曲家。幼少から楽才を発揮し、海軍士官学校に進むも軍籍のまま音楽活動が続けた。ペテルブルク音楽院教授として多くの弟子を育てた。ロシアの国民楽派である五人組のひとり。交響組曲《シェエラザード》や序曲《ロシアの復活祭》など色彩豊かな管弦楽曲に加えて、多数のオペラを残す。